

『いのち』を考える ～遺族ケア・グリーフケア～

①
1月29日(金)



白山 宏人

医療法人拓海会大阪北ホームケアクリニック院長 在宅医

家族を支える「いのちのつながり」～家で過ごすということ～

在宅の現場では、ご本人がご家族とともに住み慣れた家で過ごし(生活)、自分らしい時間(いのち)を重ねていけるよう、多職種で支えていきます。ご本人とご家族は様々な状況にあっても、それと向き合う中で様々な「つながり」を見い出されます。そしてそれはご家族の大切な支えとなっています。今回、「生活の場」での「いのちのつながり」についてお話しします。

④
2月19日(金)



清水 新二

奈良女子大学名誉教授、放送大学客員教授

“自死”～もう一つの寄り添いと「生きた証」～

自死はいろいろな事に想いを馳せるべき事柄です。自死遺族の置かれた社会状況やその中の苦悩、なぜ自死は普通に語ることが憚られるのか、なぜ悲しみをきちんと悲しめないのか。「封印された死」の解除に向けて、自死の見方そのものの社会的切り替えの必要性や“自死”用語の可能性についても触れてみたいと思います。

②
2月5日(金)



大河内 大博

浄土宗願生寺副住職、上智大学グリーフケア研究所研究員

“また会える”を希望に生きる ～大切な人との絆～

「あの人はいまどこに」そうした想いを聴かせていただいていると、大切な人とご家族との絆が、「いま、ここ」にあることを感じます。「また会える」ことを希望に生きたい。」そんなご遺族さまの語りから教えていただいた絆の大切さについて、一緒に見つめたいと思います。

⑤
2月26日(金)



坂下 裕子

こども遺族の会「小さないのち」代表

支えあいと理解のまなざし

子どもの遺族の会は、悲しみだけでなく限りない愛に満ちた世界です。出会った人々が自ら立ち上がり、ゆく道のりや、限られた命を果敢に生きた子どもたちの姿を、実際の言葉や映像を交えてお伝えし、第三者に必要な理解とは何かを共に考えたいと思います。

③
2月12日(金)



坂口 幸弘

関西学院大学人間福祉学部人間科学科教授

グリーフケアのその先へ～癒しきれぬ悲しみとともに～

「グリーフケア」という言葉を聞いたことはあっても、その中身はよく知らないという人は多いかもしれません。そもそもグリーフケアって何だろう?本当に必要なのだろうか?ケアの目標はどこにあるのか?そんな疑問について考えてみたいと思います。

⑥
3月4日(金)



柳田 邦男

ノンフィクション作家、評論家

かけがえのない学び ～「死を創る時代」の羅針盤～

人は誰しも人生を振り返ると、山あり谷ありの長編物語になっています。では、大切な人を亡くし心に空白ができた時、どう生きるのでしょうか。今度は振り返るのではなく、人生の次なる章を自分で創らなければなりません。死にゆく人との数々の出会いは、そのための羅針盤となっています。その多彩なかたちを語ろうと思います。

(敬称略)